

平成25年度事業計画

当協会は平成25年度、公益財団法人として2年目、また、大阪市立科学館の指定管理者として指名を受けた4年間（平成22～25年度）の最後の年となる。

24年度の科学館は、金環日食に関するプラネタリウム投影やイベントの実施、科学館内外でのサイエンスショーの充実、映画「天地明察」公開に連動した企画展の実施等もご評価いただき、来館者数は好調である。

一方、大阪市では大胆な市政改革や政策の転換を行うとともに、大阪にふさわしい新たな大都市制度の実現に向けた取組みを進めている。

このような状況の中、当協会は、平成23年6月に策定した経営計画（平成23～27年度）に基づき、日々の職員等の「基礎活動」の重要性を胸に強く刻み、資料の収集・保管、及び調査研究を背景に、基盤事業としての展示場の公開・プラネタリウムの投影、教育・普及活動、アウトリーチ活動等を展開し、協会目的である科学並びに科学技術の普及振興を図ることとする。

このため、学芸活動の質をさらに高めることはもとより、お客さまサービスと運営効率を一層向上させるとともに、お客さまにとって魅力的な科学館でのプログラムやイベントを企画し、科学館外でもお客さまと接触する機会を増やすことにより、科学館来館者の増加と、将来のわが国の科学を担う次世代層の育成の一翼を担うことを目指す。

また、公益法人化を契機に、当協会の長期的視野にたった活動指針「科学館のあり方」を有識者会議の助言を受けながら策定しているが、平成25年度にその取りまとめを行うこととする。

なお、当協会が平成25年度、重点的に取り組む項目は以下の通りである。

I.公益目的事業

○ プラネタリウム事業の充実

一般向け番組は、平成22年12月に開始したプラネタリウムの2番組化が好評であるため継続実施する。そのうち、オート投影部分のソフトについては、独自制作や外部からの配給等様々な手法を用いて調達する。制作したソフトは、他館での採用を目指して販売活動を行う。

また、投影回数を1日7回から8回または9回に追加する投影日を、24年度の27日から25年度は70日に、大幅に増やすとともに、全天周デジタル映像作品をメインにしたプラネタリウムBの内容を従来6か月毎に変更していたが、3か月毎に変更するなどプラネタリウム事業の充実を図る。

○ 色に関する企画展、イベント等の実施

染料や顔料などの色、虹のようにプリズムの原理で見える色、タマムシのように見る方向によって色が変化して見える構造色等、色に関する現象をテーマに企画展示・サイエンスショー・講演会・普及事業などのイベントを実施する。合わせて構造色研究会のシンポジウムを科学館で実施する。

○ 大型科学イベントのプロデュースや科学普及事業のコンサルティング等の実施

アウトリーチ活動の一つとして、平成22年度及び23年度に近鉄百貨店阿倍野店で実施し、好評であった移動科学館「あべの科学博」を復活実施する。館外で、より多くの皆様に科学への興味を持っていただける内容の展示や実験ショーを展開する。

また、米国サンフランシスコの科学館「エクスプロラトリウム」が世界各地へ独自のハンズオン展示群による巡回展を企画しており、その日本版の制作に関して当館学芸員がコンサルティング等の監修を行う。

※参考資料

①平成25年度 来館者目標 700,000人

(内訳)

- ・展示場 355,000人
- ・プラネタリウム 345,000人

②平成25年度 一般向けプラネタリウム及びサイエンスショーテーマ一覧

期 間	プラネタリウムA	プラネタリウムB	サイエンスショー
25.3.1~6.2	未来の星空を見てみよう ー北斗七星がなくなる!?ー	星空へのパスポート	くうきフシギ発見! ーシーオーツーのひみつー
25.6.7~9.1	太陽系バーチャルツアー	ブラックホール	マイナス200℃の世界
25.9.3~12.1	宇宙のトップスター ー太陽の100万倍明るい星ー	さがせ! 第2の地球 (25.9.3~10.31)	色のいろいろ
25.12.6~3.2	オリオン座の赤い星 ーペテルギウスの超新星爆発ー	オーロラ (25.11.1~26.3.30)	炎のアツい科学
26.3.7~3.30	南十字星		ひみつの光で大実験

※土・日曜日、祝日、8月11日~18日の15時は「銀河鉄道の夜」を投影

1. 大阪市立科学館の管理運営業務受託事業(収入:225,452千円、支出:225,452千円)

大阪市立科学館の指定管理者として、その管理運営を行う。

<事業内容>

(1) 資料の収集・保管・調査研究

物理・化学・宇宙等とその応用分野に関し、資料の収集・保管並びに調査研究を行う。
第4次展示改装事業のための調査を行う。

(2) 展示場の公開・管理

- 1) 展示場の公開を行う。
(4階:宇宙とその発見、3階:身近に化学、2階:おやかで科学、1階:電気とエネルギー)
- 2) 展示場が正常に機能するように、その保守管理を行う。
特に、参加型展示固有の故障対応については、引き続き迅速な展示品の修繕に努める。
- 3) 展示品の評価、並びに資料収集等による展示品の改良を随時行う。
- 4) 学芸員など専門スタッフによるサイエンスショーを実施する。
- 5) ボランティアによる展示案内やエキストラ実験ショーを実施する。
- 6) 企画展を随時実施する。
色に関する企画展、イベント等を実施する。

(3) 教育・普及事業

- 1) 未来の科学を担う人材の育成に資する「青少年のための科学の祭典」、「こどものためのジオカーニバル」を日本物理教育学会など他団体と連携して実施する。
- 2) 学校教育への支援のため、教職員向けの各種研修を行う。
- 3) 科学とは違う分野に興味のある方への普及のため、文化連携事業を開催する。
- 4) 大阪市博物館協会と連携しての各種活動を行う。
大学生などの科学館利用を促進するため「キャンパスメンバーズ制度」を継続する。
8ONニュースへの記事提供や、共同研究、博物館連続講座やシンポジウムへ参画する。

(4) 情報発信及び広報・宣伝事業

- 1) 出版事業のほか、ホームページ、電子メールマガジンを活用する。
- 2) 科学館の案内看板を整備し、事業案内チラシの発行を行う。
- 3) 学校団体に向けた説明会を実施するなど、利用促進活動を積極的に行う。

(5) 建物及び付属設備の維持保全事業

科学館の建物及び付属設備の維持保全業務を通して、その円滑な運用に努める。

2. 自主事業

<事業内容>

(1) プラネタリウム事業

- 1) 一般投影は、観覧者層の興味や時宜に応じて実施する。
- 2) 幼児とその保護者を対象にした「キッズタイム」を「ファミリータイム」に名称変更し、実施する。
- 3) 学習投影を引き続き実施する。昨年度同様、1、2月期は1日2回の投影を行う。
- 4) スペシャルナイトを引き続き実施して様々な興味関心の要請に応える、また実験的な投影を行う。
- 5) 番組で使用する映像ソフトは、独自制作、外部からの配給など、様々な手法を用いて調達する。制作したソフトは、他館での採用を目指して販売活動を行う。
- 6) これら多彩なプログラムの広報については、地下鉄掲出ポスターやスマートフォン対応を含めたホームページなども活用しながら推進し、市民等の利用を促進する。

(2) 全天周映像普及事業

オリジナル制作の「ブラックホール」など、当協会で作成した映像ソフトを配給する。

(3) 普及啓発事業

1) 独自事業

- ①当協会発行の科学雑誌「月刊うちゅう」を編集、発行する。
- ②ボランティアによる展示場案内「サイエンスガイド」を引き続き実施する。
- ③夏休み科学教室や天体観望会などのイベント型教育普及事業を引き続き実施する。
- ④アウトリーチ事業として、モバイルプラネタリウム・出張サイエンスショー・ワークショップなどを引き続き実施する。
- ⑤「あべの科学博」等の大型科学イベントのプロデュースや、科学普及事業のコンサルティングなどを引き続き実施する。
- ⑥アウトリーチ事業のスタッフや、エキストラ実験ショーのボランティアスタッフを育成するための研修講座を実施する。
- ⑦来観者アンケートを実施する
- ⑧学校との連携をさぐり、利用促進するために学校への訪問を行う。

2) 連携事業

他館、機関、企業、団体等との連携活動を積極的に推進する。

科学館友の会や市民が参画する各種の科学学習のサークル活動を支援する。

日本IBM社との科学教室、大阪管区気象台との気象イベント、芝浦工大とのロボット教室などのイベントを開催する。

「光のルネサンス」など大阪市の事業と連携してプラネタリウムの投影などを行う。

(4) 中之島科学研究所事業

物理・化学・宇宙等とその応用分野に関する調査研究を行う。

展示品開発に関連した教育的・展示学的な調査研究を行う。

理工系学芸員対象の展示研究会を開催し、わが国の展示活動の向上に貢献する。

その他の研究会等を積極的に開催し、研究所活動の維持・発展に努める。

Ⅱ.収益事業等

1. 付随事業

<事業内容>

(1) 売店

科学館内売店を運営するほか、屋外テント内に自動販売機を設置する。